

生徒指導通信

～時を守り 場を清め 礼を尽くす～

No,4 作成者：山本
2026年 7月10日

「場を清める」～心と環境を整え、最高の自分を引き出そう～

1. 掃除の時間、一生懸命に励むみなさんの姿

駅家中学校では、基本毎日、掃除が10分間あります。1学期も終わりますが、日々の10分間、掃除をやりきれていますか？みなさんは「汚れ」を許していないですか？ぜひ、振り返ってみましょう。以下の写真は一生懸命に励むみなさんの一部でしかありませんが、その姿です。



2. 「場を清める」ということの意味

みなさんは「場を清める」という言葉を聞いたことがあるはずです。これは、人が大きく成長し、自分自身の力を最大限に発揮するために、とても大切にされている「成長の三原則」の一つです。

単に「散らかっているから片付ける」という作業ではありません。私たちの身の回りにある、目に見える「物理的な汚れ」や「乱れ（すさみ）」を取り除くこと、それが「場を清める」ということです。場がキレイに清められると、そこには凛とした清潔な空気が流れ、勉強、部活動、日々の生活すべてのパフォーマンスが自然と高まっていきます。

3. 知っていますか？「整理」と「整頓」の違い

私たちが普段何気なく使っている「整理整頓」という言葉ですが、実はこれにはそれぞれ異なる、深い意味があります。

整理	「いらないものを捨てる（手放す）こと」 自分の身の回りを振り返り、本当に必要なものとそうでないものを区別することから始まります。
整頓	「必要なものを使いやすく、取り出しやすいように用意すること」 次に使うときや、周りの人が使うときのことを考えて、適切な場所に配置することです。

掃除の時間に、ただゴミを掃くだけでなく、教室のロッカーや机の周り、部室の道具などを「整理」し「整頓」すること。これこそが、まさに「場を清める」具体的なアクションです。

右の写真のようにあなたのロッカーは「整理・整頓」されていますか？



4. 私たちは「目で見たもの」に影響されている

ある教育の法則に、「人間は目で見ただけで慣れ親しんでいく」というものがあります。もし、身の回りにゴミが落ちていたり、机の上が散らかったりしている環境にいと、心の中に少しずつ「これくらいいいや」という油断や心の乱れ（すさみ）が生まれてしまいます。逆に、いつも清潔で美しく整えられた環境で過ごしていると、不思議と自分の立ち振る舞いや言葉遣いも正しくなり、お互いを尊重し合える礼儀正しい心が育まれないようになります。

環境が心を作り、心が行動を変えていきます。皆さんが今、掃除の時間に一生懸命「場を清めて」いるのは、学校をキレイにしていると同時に、自分自身の「心」を磨き、高めているのです

📍 山本先生からのメッセージ

日に日に、「掃除の時間」での、みなさんが一生懸命に取り組む姿がよくなってきています。明日からの掃除の時間は、ぜひ「今、自分は場を清めて、心を磨いているんだ」という意識を持ってみてください。キレイになった教室や廊下を見て、心地よさを感じるその心が、みなさんのこれからの大きな成長へと繋がっています。みなさんで最高の学校環境を作っていきましょう！